



子育て講演会（令和8年7月10日（金）：甲州市民文化会館ホール）

子どもが安心して人と関われるようになるために
～子どもの特性の理解と周りの大人にできる関わり～

山梨大学大学院 総合研究部 教育学域 教育学系
教授 吉井 勘人 先生

講演のポイント

- ① 特別な支援を必要とする子どもは増加しており、発達障害だけでなく、家庭環境や文化的背景など、多様な要因への理解が求められている。
- ② 子どもの問題行動は「困った行動」ではなく、「困っているサイン」として捉えることが大切である。表面的な行動だけで判断せず、その背景にある特性や環境を理解する必要がある。
- ③ 大人は「頑張っているか」よりも、「安心して過ごせているか」を重視し、子どもの心理的安定を支えることが重要である。
- ④ 支援では、短く分かりやすい指示、視覚化、環境調整など、子どもが理解しやすい工夫を行うことが効果的である。
- ⑤ 感情のコントロールが苦手な子どもには、事前の見通しづくりや気持ちの見える化、落ち着く方法を教えることが有効である。
- ⑥ 子どもの特性を短所として見るのではなく、「活発」「集中力が高い」「感受性が豊か」など、強みとして捉え直す「リフレーミング」が大切である。
- ⑦ 発達障害のある子どもの中には、周囲に合わせるために無理をしている場合があり、「問題がないように見える」ことと「安心している」ことは異なる。
- ⑧ 自尊感情は、「ありのままの自分でよいと思える自信（存在への自信）」と、「自分にはできることがあるという自信（能力への自信）」の両方が重要である。
- ⑨ 子どもに役割や活躍の場、自己選択の機会を与え、努力や成長を具体的に認めることで、自尊感情と社会性が育まれる。
- ⑩ インクルーシブ教育とは、違いを問題ではなく「学びを豊かにする価値」として認め合う教育であり、すべての子どもが参加しやすい環境づくりを目指すものである。



まとめ

「みんな違って、みんないい」という視点のもと、子どもの困難さの背景を理解し、安心できる環境を整え、一人ひとりの強みや可能性を伸ばしていくことが、子どもの健やかな成長と豊かな人間関係づくりにつながる。理解しようとする大人の姿勢そのものが、子どもへの最も大切な支援である。

※8月20日（木）には、地域教育セミナーも予定されています。多くの方のご参加をお願いします。

甲州市議会議員による出前授業 【甲州市立勝沼中学校】

議員から学ぶ

5月15日（金）、勝沼中学校において甲州市議会議員による出前授業が行われました。この取り組みは、市議会の役割を知ってもらうことをはじめとして、市議会を身近に感じてもらうことを目的に、将来の職業選択の1つとして、市議会議員になることも考えてもらいたいという思いから企画されたものです。



生徒の意見に耳を傾ける



真剣に授業を受ける

意外と身近な市議会

市議会は、「甲州市がどのようにしたら暮らしやすいまちになるか」を考える組織です。本来はすべての市民が集まって話し合うのが一番よいのですが不可能なので、自分たちの代表を議員として選び、その代表で話し合いを行っていることが説明されました。また、選挙には何歳から投票できるかなどクイズを交えながら、生徒の興味を引く説明が行われました。学校で使っているタブレット端末導入についても市議会で話し合いが行われたことを知り、生徒は市議会を身近なものに感じていました。

ウェルビーイングを目指す

市議会が目指す究極のゴールは「いい感じ（満たされている）」だそうです。今回の授業の中ではウェルビーイングについて説明があり、聞き慣れない言葉やその意味を知り、多くの生徒は関心を持っていました。8月には子ども議会が開催される予定で、今回の授業で学んだことを生かして市に皆さんの要望や意見を伝えられるといいですね。



市議会について説明

ドイツの高校生との国際交流事業 【山梨県立笛吹高等学校】

姉妹都市から来校

5月14・15日（木・金）、ドイツ・バート・メルгентハイム市の高校生12名が笛吹高校を訪れ、生徒との交流活動を行いました。ドイツ・バート・メルгентハイム市と笛吹市は、温泉保養地という共通点を背景に1991年に友好交流協定を締結以来、長年交流を続けています。

日本文化に触れる

ドイツから来日した高校生は、日本の文化を学ぶために折り紙の体験や書道部体験、茶道部体験などを行いました。折り紙の体験では、折り鶴の制作を体験し、生徒から手ほどきを受け細かい作業に苦労をしながら完成を目指しました。書道部体験では、興味のある漢字を決め、部員から指導を受けながら、書の完成を目指しました。漢字の書き順など英語でコミュニケーションをとりながら、丁寧に指導をしていました。茶道部体験では、静寂な雰囲気の中、呈茶によるもてなしを受けました。作法の手ほどきを受けながら緊張した様子でお茶をいただいていた様子もありました。苦みで顔をゆがめている様子もありました。



作法について学ぶ



はじめての書道体験



スマートフォンによる書き順指導

国際的な視野の育成

笛吹高校の生徒は、今回の国際交流の機会を通して、国際的な視野の育成や異文化理解の深化を図ることができたようです。現代社会では外国との関わりがとても重要であり、今後の学習や進路選択などに役立ててもらいたいです。

日川クラブ活動 【山梨県立日川高等学校】

体験活動から学ぶ

日川高校において、5月17日（日）〔各種スポーツ〕・24日（日）〔吹奏楽〕の日川クラブ活動が行われました。この取り組みは、単なるスポーツや文化の活動でなく、様々な体験活動を通して「考える力」「振り返る力」を育てる取り組みです。活動の中で「なぜそうなったのか」「次に何を工夫できるか」を考え、次の行動につなげていきます。公立中学校の部活動地域展開が進む中、地域の子どもたちにスポーツや文化活動の体験を提供する機会となっています。



高校生に技をかける



ウェイトを持ち上げる

様々な体験活動

17日の体験活動では、体づくり運動をはじめとして、ラグビー、バレーボール、ハンドボール、ウェイトリフティング、柔道、バスケットボール、野球の各競技が行われました。参加した子どもたちはこれまでやったことのないスポーツの体験を通して、体や道具の使い方、力の入れ方について実体験で学ぶことができました。

高校生も自ら指導者に

今回の取り組みの企画や指導は、高校生が中心となり行いました。指導を通して、責任感や社会性が育まれ、指導力やコミュニケーション能力の向上につながることが期待されます。また、地域に貢献することの大切さも学ぶ機会となったようです。



タグラグビー



ジャンプシュート

笛吹川 鮎の放流体験 【笛吹市立石和南小学校】

自然に興味を持つ

石和南小学校の4年生26名が、5月25日（月）に学校の近くを流れる笛吹川において、鮎の放流体験を行いました。この取り組みは、公益財団法人日本釣振興会山梨県支部の協力を得て、今回で6回目となります。総合的な学習の時間のテーマとして「笛吹川」を調べるにあたり、川に生息する魚や生き物に興味関心を持ってほしいと企画されたもので、児童はおよそ4000匹の鮎を放流しました。

鮎の生態を学ぶ

はじめの会の中で、日本釣振興会山梨県支部の雨宮さんから、鮎の生態について説明がありました。鮎は一般的には秋頃ふ化し、海まで下って大きくなった後、春以降に川を上ってきます。しかし、笛吹川には堰があるために海に下ることはできないそうです。笛吹川では鵜飼いや友釣りが行われているため、鮎の放流は欠かせないものとなっています。



説明をしっかりと聞く

優しく声をかける

放流を行う際には、児童が「大きく育てね」や「元気に泳いでね」といった優しい言葉をかけている姿が目立ちました。鮎に負担をかけないように触る前には手を冷やすなど、指導をされたことを意識しながら放流を行っていました。元気な鮎がバケツから飛び出した様子に驚く児童もいました。今回の体験を通して、生き物を大切にしようとする気持ちが高まったようです。



大きくなってね



手を冷やして放流

陸上記録会に向けた高校生との交流会 【山梨市立加納岩小学校・山梨県立山梨高等学校】

立地を生かして

加納岩小学校と山梨高校は隣接している立地を生かして、交流活動を行うことになりました。その第1弾として企画されたのが、山梨高校陸上部生徒による競技指導です。5月19日（火）に行われる、東山梨地区の小学校陸上記録会に向けて、練習をしている児童に対して、陸上競技の練習を日々行っている高校生から指導をしてもらいました。

高校生の指導を真剣にうける

4月30日（木）加納岩小学校のグラウンドに、山梨高校陸上部の生徒16名が訪れました。ストレッチ運動を行った後、陸上記録会で行われる100m走、ハードル、ボール投げ、走り幅跳び、走り高跳び、長距離走の各種目に分かれて指導が行われました。各競技の専門家である高校生から様々なアドバイスをもらい、児童たちは熱心に練習に取り組みました。ICT機器も積極的に利用し感覚的な部分だけではなく、視覚的にもわかりやすい指導が行われました。



ハードルの跳び方の指導

教えることから学ぶ高校生

指導に当たった高校生も、教えることから自分を見つめ直す、よい機会となったようです。陸上競技は個人競技であることから、自分自身で課題を設定し練習に取り組んでいます。今回の取り組みによって自分の課題点を再発見することができたのではないのでしょうか。



ストレッチの大切さを学ぶ



ICTを活用しての指導

産業技術短期大学校での体験授業 【甲州市立松里中学校・山梨県立産業技術短期大学校】

体験から学ぶ

5月12日（火）松里中学校の3年生16名の生徒が、産業技術短期大学校において体験授業を行いました。はじめに産業技術短期大学校の概要の説明を受けた後、生徒の希望に応じて、前半は生産技術科・観光ビジネス科、後半は電子技術科・情報技術科の授業を受けました。

専門的な授業を真剣にうける

生産技術科の授業では工作機械についての説明、制御技術による卒業生の制作した製品の実演を見た後、パソコンを使った図面の作成を行いました。思ったよりも簡単に図面ができることに驚いていました。観光ビジネス科では、接客に関する基礎知識、カクテルの制作の様子を見学した後、テーブルナプキンのたたみ方（バラ）の体験を行いました。体験では、手順を確認しながら作業を行いましたが、作品のバランスをとるのが難しかったようです。電子技術科では、電気・電子の基礎知識を学んだ後、マイコンを用いた遠隔操作の体験を行いました。パソコンから指示を出すことによって、手元のランプが点滅をする様子に驚いていました。情報技術科ではソフトウェアについての説明を受けた後、生成



生成AIによるプログラム作成



大きな工作機械の説明



カクテルについて学ぶ

AIを用いたプログラムの作成を行いました。生成AIを利用すると簡単にゲームが作成でき、作成したゲームで盛り上がりしました。

進路を考えるきっかけに

指導を受けた生徒たちは、学校では学ぶことができない体験学習を通して、現在の便利な生活には、様々な技術が用いられていることやこれから生きていくためには、発想力や学力が重要であることを理解することができたようです。また、卒業後の進路選択の参考となる、とても貴重な体験となったようです。

ブレイクダンス体験授業 【山梨県立ろう学校】

優れた技術を学ぶ

ろう学校で6月11日（木）に、小学部1年生（7名）の部、小学部2年生から6年生（10名）の部に分かれて、ブレイクダンス体験授業が行われました。やまなし大使を務め、数多くの全国大会や世界大会で優勝している、UEN（ユエン）さんから指導をしてもらいました。授業の最後にはパフォーマンスの披露もあり、児童は目を輝かせながらプロの演技を見ていました。

ダンスと向き合うために

ダンスに入る前にストレッチを行いました。ストレッチはどのような運動を行う前にも大事なことであり、特にけがを防ぐためには効果的です。一つ一つのやり方を講師の先生から実演してもらい、児童はその動きをまねしながら身体をしっかりとほぐしていました。



プロの技術に興味津々

難しい技への挑戦

まずは基本的なステップから取り組みました。忘れていた動きも、すぐに思い出すことができました。2～6年生は、昨年度も指導をしてもらった経験を生かして、今年はレベルを上げた技にも挑戦しました。一人ではできない逆立ちにもサポートを受けながら挑戦をしました。はじめはうまくできない児童もいましたが、回数を重ねるごとに背筋が伸びるようになりました。今後も新しいこと、難しいことにもどんどん挑戦してもらいたいです。



まずはストレッチから



逆立ちにもチャレンジ

山梨市子ども科学教室 【山梨市教育委員会生涯学習課】

科学の楽しさを学ぶ

6月20日（土）に、山梨市民会館において山梨市内の小学校3年生から6年生の19名が参加して、山梨市子ども科学教室が行われました。山梨県立科学館の中村雅彦先生から、ものづくりを通して科学の楽しさや不思議さを感じられる授業が行われました。授業の始めにはサイエンスショーも行われ、子どもたちは科学の世界に引き込まれていました。



説明を真剣に聞く

磁石の性質を感じる

今回の教室では、電磁石を使ったものづくり（マグネットダンサーを作ろう）が行われました。すぐに製作に入るのではなく、磁石の性質について実験をしながら始めました。多くの子どもたちは、磁石の性質について多少の知識はあったものの、実際に体験することによって、知識と現実を結びつけることができたようです。教科書だけの知識ではなく、実験の大切さを感じ取れたのではないのでしょうか。

ものづくりの魅力

課題の製作に入ると、子どもたちは個性を出しながら作品を作りました。特に、製作したダンサーの色つけやコイルを巻く作業では、時間をかけてこだわりを持つ子どもと、手早く作業をする子どもに分かれました。ものづくりでは、こだわりも大事、手早く作業をすることも大事ですが、この2つのバランスを取ることがとても大切です。山梨県は意外かもしれませんが、ものづくりが盛んな地域です。今回の教室でものづくりや科学技術に興味を持ってもらえるとうれしいです。



完成した作品



不思議な磁石の力

東山梨・笛吹市中学校総合体育大会

練習の成果を発揮して

今年度の「中学校総合体育大会」が6月4日（木）に東山梨地区、5日（金）に笛吹市で開催されました。会場には多くの保護者や地域の方が訪れ、一生懸命頑張っている子供達に、大きな声援を送っていました。部活動の地域展開が少しずつ進んでいることから、地区の大会が行われない競技もありました。



【団体競技 優勝校（地区別）】

種 目	東山梨		笛吹市	
	男子	女子	男子	女子
野 球	山梨南・勝沼	—	石和	—
サッカー	勝沼・塩山	—	—	—
ソフトボール	—	塩山	—	—
バスケットボール	塩山	塩山	石和	石和・春日居
バレーボール	塩山	山梨南	御坂	御坂
卓 球	山梨南	塩山	春日居	一宮
ソフトテニス	山梨南	山梨北	石和	浅川
剣 道	山梨北	勝沼	浅川	—
柔 道	（個人戦のみ）	（個人戦のみ）	（個人戦のみ）	（個人戦のみ）
ハンドボール	山梨北	塩山	—	—
弓 道	—	—	石和B	石和A
バドミントン	（個人戦のみ）	（個人戦のみ）	—	—
陸 上	（個人戦のみ）	（個人戦のみ）	—	—

東山梨・笛吹市小学生陸上記録会

自分自身を超えろ

令和8年度の「陸上記録会」が東山梨地区は5月19日（火）に塩山総合グラウンドにおいて、笛吹市は6月10日（水）にJITリサイクルインクスタジアムにおいて行われました。梅雨時で雨が心配されましたが、両日とも天候に恵まれ、大きな応援の声が響く中、児童たちは自己ベストの更新を目指しました。

